パンデミック時に医療従事者がデジタルCPRトレーニングを使用することでコンピテンシーを維持

獨協医科大学病院は、病床数1,195床を有し、高度な医療の提供と医療に関する開発・評価・研修を行う特定機能病院として、地域医療の中核を担っています。2002年、救命救急センターを開設。

2010年には栃木県ドクターヘリの運行を開始し、栃木県全域の三次救急医療の一端を担っています。

RQIプログラムで課題を克服

獨協医科大学病院では、COVID-19パンデミックが続く中、多くの受講生（医療従事者）に一貫して蘇生教育の環境を提供するためにRQIを活用しています。

“従来のBLS（Basic Life Support）プロバイダーコースでは、コース修了後のスキル維持は個人に任されていたため、能力にかなりのばらつきがありましたが、RQIを導入したことにより、院内で標準的な蘇生の質を担保することができるようになりました。”

“COVID-19の影響で多くの集合研修が中止になっている状況下においても、感染対策を十分に考慮したセルフ型トレーニングを継続することができます。”

獨協医科大学SDセンター
副センター長（特任准教授）
永井 睦子

獨協医科大学病院のRQI参加者アンケートによる満足度スコア

- 94% - 教室でのトレーニングよりもRQI
- 94% - eラーニングとして適切な難易度
- 96% - RQIスキルに適した難易度
- 78% - 四半期ごとの実施サイクル
- 96% - RQIスキルフィードバック

“また、RQIアナリティクスを使って、職員のスキルの維持・向上を可視化できるのも良いですね。”

獨協医科大学 救急医学
教授 菊地 研

Laerdal.com/RQI

American Heart Association. Laerdal helping save lives

RQI RESUSCITATION QUALITY IMPROVEMENT.
An American Heart Association and Laerdal Program

RQIの活動：
獨協医科大学病院のリーダーから見たポジティブなインパクト

獨協医科大学病院では、2019年の導入以来、RQIを標準的な蘇生教育の一環として活用しています。我々は、プログラムが3年目を迎えるにあたり、RQIの更なる普及が院内救急システムの大きな改善に寄与できると認識しています。

“RQIは、多くの受講生（医療従事者）に定期的にセルフ型トレーニングを提供しています。音声による指示的なフィードバックによって実技の修正をリアルタイムに行うことができ、また学習レポートを抽出して評価することができることは、当院における蘇生の質を高める上で大きなメリットとなっています。”

獨協医科大学SDセンター
副センター長（特任准教授）
永井　睦子

蘇生の質の向上

- CPR能力の測定を検証する短時間、高頻度の質の向上セッションを通じて、シミュレーションに基づく習得学習のための信頼性の高いプラットフォームを提供します。
- フィードバックを重視した意図的な練習により、質の高いCPRスキルの習得をサポートします。
- 四半期ごとにかかる時間は、スキルセッションは5～10分、認知パートは最大35分です。
- 管理者は、実施されたすべての活動に関連する分析データを保持します。 パフォーマンスの追跡と、蘇生に関連する継続的な質の改善への取り組みを追跡・モニタリングすることができます。
- シミュレーションステーションは、24時間いつでもアクセスできる便利な場所に配置することができ、勤務時間内にスキルパートを完了させることができます。

獨協医科大学病院におけるメリット

- 反復トレーニングによる安心感と実践的なスキルの向上
- 臨床現場での適切な行動能力の再確認
- 実践でのテクニックに自信が持てる

今後の展望

獨協医科大学病院は、このプログラムの拡大に伴い、組織全体でスキルコンピテンシーの向上を達成し続けることを目標として取り組んでいます。

Laerdal.com/RQI

© LAERDAL. 無断複写・転載を禁じます。 INT-22-0003